

広報TSB

第9号

平成28年度 前期

TOHOKU SEIKATSU BUNKA
UNIVERSITY & JUNIOR COLLEGE

地域の未来を、 共に創る

東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部

学長 山田 宗慶



皆さんこんにちは。

今年も夢と希望に溢れた新入生を迎えて四月四日に入学式が厳粛に行われました。新入生は直後に開催されたオリエンテーションキャンプで、教職員や先輩学生達から学習方法をはじめ本学での様々なノウハウを学んで今や元氣一杯にキャンパスライフを送り始めています。ご承知のように本学では授業、実験、実習、演習を適度にバランスさせて教養教育と専門教育の双方に力を入れています。少人数教育によっていいねいな指導によって幅広い教養に裏打ちされた高い専門知識・技能を教育しています。新入生が充実した生活を送れるよう本学としては精一杯支援していく覚悟です。

春以降、これまでに、防災避難訓練、体育祭、オープンキャンパスなど全学生対象の恒例行事が滞りなく行われております。次ページ以降にも紹介記事が掲載されています。

ただ、悲しいことに、新年度早々、九州の熊本が震度七の地震に見舞われ、多くの犠牲者が出ました。なかには大学生も含まれています。本学でも犠牲者の御冥福を祈って黙祷をささげ、早速義援金を集めて赤十字に届けま

した。東日本大震災の復興半ばとはいえ、熊本の復興も折らずにはいられません。

さて、折角の機会ですから本学における最近の話題をいくつか紹介します。昨年度は大学の生活美術学科が創設五十周年を、短大の子ども生活専攻が創設十周年をそれぞれ迎え、先人のご苦労と皆様のご支援に感謝しつつ今後の発展を誓いました。また短大は第三者評価として七年に一度と義務付けられている短大基準協会による認証評価を受審し「適格」との評価を頂いております。さらに文科省の「私立大学教育研究活性化設備整備支援事業」に大学、短大が共に採択され、最新の教育研究設備を導入することが出来ました。現時点では東北唯一を誇る最新の自動織機も導入され本学の教育研究が一段と活性化することは間違いありません。このほか、仙台市内の十二の大学が協力して「みやぎ・せんだい協働教育基盤による地域高度人材の育成事業」にも採択され、今後五年間、宮城県、仙台市と協力して地元就職の推進に力を入れます。本学は明治三十三年東北法律学校として、次いで明治三十六年に東北女子職業学校として、創立時より男女の社会進出を後押ししてきた誇るべき歴史があります。現在も高い地元就職率を維持しておりこの事業でも大いに期待されています。ちなみにこの三月の就職率は大学九六%、短大一〇〇%でした。

現在、大学・短大に対する社会の期待は極めて高いものがあります。本学も教職員一丸となつて一層努力してまいる覚悟でございますので保護者の皆様、そして同窓会や産学連携協議会の皆様のご理解・ご支援をお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様の益々のご健勝と御発展をお祈り申し上げます。



大学家政学科

短信



家政学科はこの三月に三年間の任期を終え退職されました岩井綾助手の後任として、遠藤彩紗助手を迎えました。早速、実験・実習の補助や臨地実習に赴く学生たちの指導に活躍しております。

今年度これまでの家政学科の状況ですが、まず四月四日に入式があり新入生および編入学生を迎えました。健康栄養学専攻は男子学生が昨年度入学者は十名、本年度も八名と近年増加傾向にあります。今年も入学ガイダンス後のオリエンテーションキャンプ時からすっかり打ち解けた様子で、その固い結束で学内行事等に力を発揮してくれるものと期待しています。

五月は管理栄養士国家試験の合格発表がありました。ここ数年八十%を超える合格率を残していたものの、今年は全国的な傾向とはいえ、残念な結果に終わってしまったことを受け、受験生の支援体制の見直し、いっそうの強化が図られています。

六月は本年度最初のオープンキャンパスが十八日に開催され、昨年度同時期の二倍の参加者を迎える事ができました。

家政学科では両専攻とも大学の教育内容をわかりやすく取り上げた模擬授業を実施しました。また服飾文化専攻での専攻内見学ツアーでは、昨年度、東北で初めて本学にのみ導入された最新機器である「テキスタイルオートサンプル組織機」も披露されました。この組織機は生活美術学科との共同プロジェクトである「染織を中心とした



モノづくりプロジェクト」で利用されています。

また、六・七月は教育実習や健康栄養学専攻の隣地実習といった学外実習が佳境を迎えており、学生たちが続々実習先へ赴き、日頃の学習の成果を存分に発揮し、充実した実習を終えた学生たちが顔を輝かせて日々の授業に戻っております。

これから学生たちは定期試験を迎え、四年生は課題研究、就職活動、受験勉強や残りの学外実習と多くの試験を迎えますが、必ずやこれらに打ち勝つてより一層の成長を遂げてくれるものと期待しております。

大学生生活美術学科

短信



今年四月から新任で鶴巻史子講師が着任されました。科目は主にデジタルデザイン、担任は二年生を三上教授と担当していただきます。また副手として本学科卒業生の川角由さんが入りました。新入生を迎え、恒例の一年生特別講義東京研修旅行に全員が参加しました。西洋美術館のカラヴァッジョ展や都美術館で開催されていた若冲展など見学研修を行いました。四年生は教育実習、就職活動本番を迎えています。自身の将来を見据えながら研究に、就職活動に努力しています。

学生たちの活躍状況を上げてみますと、三月には版画ゼミナール展、四月には日本画ゼミナール展を開催。六月に開催された日本現代工芸展に四年高玉未来が入選、仙台で開催された東北工芸展でも展示されました。七月に開催された宮城水彩展では四年の長岡桜子が新人賞を受賞し、三年の鈴木美緒が賞候補、同じく三年の黒田萌、二年の平泉晴留が入選しました。晩翠画廊主催のワインラベルコンクールで四年の菅原理沙が晩翠画廊賞を受賞しました。また、昨

年の大学祭時に開催された学科内コンクールで画廊賞を受賞した学生による個展、グループ展も開催されました。ギャラリーターナーアワードでは、四月に四年の斎藤知佳が平面と布を組み合わせた個展。ギャラリーエチゴでは、四年の大石彩乃、長岡桜子、二年の千葉達仁がグループ展。中本誠司現代美術館では、「二ヒト展」と題した二年の高橋しずく、伊藤陽太が平面と映像の作品を展示しました。

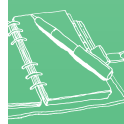
さらに教員たちの研究活動としては、四月の日本伝統工芸展において、三浦輝子助教が会員推挙。六月には、三上秀夫教授が銀座ギャラリーなつかにおいて個展。七月には、盛岡盛久ギャラリーにおいて、恒例の卒業生・教員展を開催しました。



宮城水彩展 新人賞／長岡桜子「怪〜いくち〜」水性木版

短大生活文化学科

短信



生活文化学科は、平成二十八年三月十五日に食物栄養学専攻四十三名、子ども生活専攻五十七名の卒業生を送り出しました。食物栄養学専攻では四十二名が栄養士の免許を取得し、就職率一〇〇%を達成しました。平成二十八年度から、栄養士としての実務経験を積んで管理栄養士取得を希望する卒業生のために、管理栄養士国家試験に向けた支援計画を実施しています。また、子ども生活専攻は平成二十〇二七年度の八年間、連続して就職率一〇〇%を達成しています。



平成二十八年四月、食物栄養学専攻三十五名、子ども生活専攻四十一名、計七十五名が入学し、新たな年度が始まりました。勉強だけでなく、ボランティアへの参加など、元気に短大での生活を送っています。今年度前期の主な行事を紹介いたします。

学科の行事

○四月六・七日 一年生オリエンテーションキャンプ、二年生研修旅行(天童方面)

○六月十二日 体育祭

食物栄養学専攻

二年生の実習

○六月～十月 校外実習

小学校、保育所、自衛隊、特別養護老人ホームなどで給食管理実習を行います。

○八月下旬～九月中旬(予定) フードエンタテイメント演習

株式会社江陽グランドホテル、セントジエームズクラブ迎賓館(結婚式場)、その他食関係の事業所への見学も予定しています。

栄養士としての実力アップ、就職試験・編入試験対策に有効な栄養士実力認定試験(十二月)の受験を勧め、受験対策講座を行っています。

一年生の実習

○八月八日 施設見学(セントラルキッチン)

○八月二十九日～九月七日 施設見学(短大附属ますみ

保育園

○九月二日 施設見学(仙台医療センター)

子ども生活専攻

二年生の実習

○五月十一日 マナー講座

浅野純子先生を招き、実習・就職活動に向けて講演していただきました。

宮城県教育委員会 委託／平成28年度みやぎ県民大学「大学開放講座」

調理の科学と食の安全



SCIENCE OF COOKING × SAFETY OF FOOD

平成28年8月27日(土)、28日(日)、9月3日(土) 全3日間／受講料無料

調理は科学であることを再認識し、実験を通して学習します。
また、家庭で起きやすい食中毒についてと、その防止法を実践的に学びます。

8月27日(土)	10:00～12:00	調理の科学①「植物色素の色の変化」 永沼孝子准教授／松本有紀子助手
8月28日(日)	10:00～12:00	食の安全①「家庭で起きやすい食中毒」 齋藤紀行教授／大滝友美助手
9月3日(土)	10:00～12:00	食の安全②「家庭調理で行う食中毒防止法」 津渡久美講師／益田裕司講師／岡部美喜子助手
	12:30～14:30	調理の科学②「異なる油による揚げ物の食感差」 永沼孝子准教授／松本有紀子助手

会場

東北生活文化大学短期大学部

対象

原則として全3日間を受講できる宮城県民の方

定員

40名(定員になり次第、締め切らせていただきます)

申込締切

8月22日(月)

申込方法

ハガキ・FAX・E-mailのいずれかで

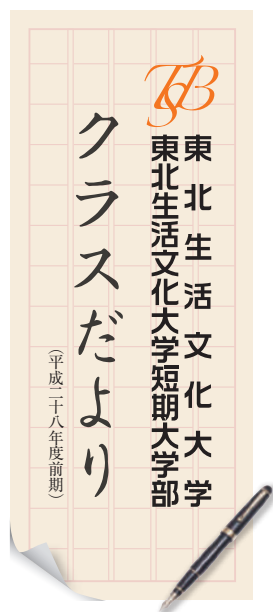
①氏名(ふりがな)、②性別、③年齢、④住所、⑤電話番号を明記のうえ、お申し込みください。

※申込の際の個人情報は、本講座に関する業務及び本学が実施する他の公開講座のご案内以外には使用いたしません。

申込先

東北生活文化大学短期大学部 企画課
〒981-8585 仙台市泉区虹の丘一丁目18番地の2
TEL: 022-272-7513 FAX: 022-301-5602
E-mail: kikaku@mishima.ac.jp

- 五月三十日～六月十日、六月二十七日～七月八日 保育所実習Ⅰ、Ⅱ
- 七月二十五日～八月五日 施設実習
- 二年生の実習
- 五月三十日 幼稚園・保育所見学実習(短大附属ますみ幼稚園・保育園)
- 六月二十八日 施設見学実習(丘の家こどもホーム)
- 九月～九月九日 幼稚園基礎実習Ⅰ(短大附属ますみ幼稚園)



大学服飾文化専攻 1年

入学式から早いもので三か月が経ちました。四月には学生全員と個別面談を行い、各自、免許・資格取得や将来の進路希望を考慮して履修登録し、大学生活の第一歩を踏み出しました。三か月が経ち、ようやく大学生活に慣れてきたようですし、クラスの雰囲気は静かで、落ち着いて取り組んでいるように感じます。今後、八月上旬には、企業での研修、夏休み中には、ファッションショーのスタッフとして参加する学生は練習が行われます。まだ、始まったばかりの大学生活ですが、色々な事に積極的に取り組んで、充実した学生生活を送って欲しいと思います。

大学服飾文化専攻 2年

本年度の服飾文化専攻二年生は、在学中の一大イベントである、三泊四日で九月に実施される研修旅行に向けて準備に追われております。具体的には関東方面での研修になり、研修場所は、一日目／東京農工大科学博物館・二日目／国立国会図書館・東レACS株式会社、三日目／シルク博物館・岩崎博物館・出光興産株千葉製油所、四日目／国立民族博物館という概略になっております。研修先の特徴としては、大学・一般企業・国の大型施設・博物館等幅広くしかも個人ではなかなか行けない場所及び研修内容になっております。この研修旅行で、クラスの団結が強まり、さらに個々人のポテンシャルアップにつながることを期待しているところです。

ところで、あつという間に二年次に進級してしまい、様々な面で頼もしくなってきたとも感じています。担任としては、この時期は中だるみに気を配りながら、さらには学業面での厳しい自覚も促しながら、充実した学生生活を送れるようサポートしていきたいと考えております。

大学服飾文化専攻 3年

二年次の後半から「中だるみ」の傾向が見られた学生もおりましたが、おかげさまで十四名が三年次に進級することができました。今後は再来年三月の卒業に向けて、気を引き締めて取り組むよう注意喚起していきたいと考えております。学生たちには、今年度修了までに卒業に必要な二四単位取得を目標とするようお願いいたしました。こうすることで、就職活動や四年間の学びの集大成「課題研究」に安心して意欲的に取り組めます。担任からも折にふれて指導しますので、保護者の皆様からも、お声掛けください、ますようお願いいたします。

大学服飾文化専攻 4年

服飾文化専攻四年生は男子三名、女子十名、休学中の学生二名の計十四名になります。最終学年なので、卒業、就職が今年度の大きな目標になります。焦りや不安などはあまり見受けられず、マイペースで今までと同じように、たんとと過しているように感じられます。就職希望者は十三名、衣料管理士の資格希望者は十一名ないし十二名います。熱心な学生は三月から会社説明会に出席していますが、六月の時点で内定をもらった学生も若干出てきました。四年生がこれから就職活動や卒業に向かって、どうやって動き、どこへ進むか、大学生活の最後の頑張りができるようサポートしていきたいと思っています。

大学健康栄養学専攻 1年

二〇二六年四月四日様の満開の下、三十九名が大きな期待を胸に抱いて入学をしました。入学式直後の二泊二日のオリエンテーションキャンプは、仲間づくりの役目を果たしてくれたようです。その後、履修登録を無事にすませ、大学の授業に臨んでおります。六月十二日には、体育祭があり、みんなの活躍があり優勝をすることができ

ました。クラス一丸大きな力の結集がありました。六月末には個人面談も済ませ、学生に少し近づくことができましたように思います。月後には、前期試験を迎えます。それぞれの目標到達のために、一生懸命勉学に励んでもらいたいと思います。

大学健康栄養学専攻 2年

昨年、男子十一名と女子二十九名(計四十名)でスタートした我がクラスの学生たちも、早いもので二年生になりました。残念なことに、男・女名ずつが「身上の都合」等の理由で休・退学した状況にありますが、昨年と同様「みな仲が良く、絆強いクラス」であることには変わりありません。今ではクラス全員が、将来の「管理栄養士」を目指し、毎日毎日が云わば「むずかしい専門科目と格闘しているような生活」という実情にありますが、教室や廊下などで挨拶し合い元気な様子をみるにつけ、「今日も元気で、頑張れ！」と応援・支援をしている今日この頃であります。

大学健康栄養学専攻 3年

四月に編入生一名を迎えました。三年生になり、授業科目も専門分野の講義、実験、実習に加え、就職活動対策や管理栄養士国家試験対策といった将来を見据えた科目も加わりました。六月からは給食管理の校外実習も始まり、その準備や終了後のまとめに励んでおります。

四月中旬から実施した担任との個人面談でも、将来の進路について確認しました。各自が進路を模索している様子がうかがえました。就職活動自体は、来年三月に始まる予定です。三年生全員が、自分の希望する進路に進めることを願っております。

大学健康栄養学専攻 4年

健康栄養学専攻四年生は、六月から病院、事業所、保健所などでそれぞれ一週間の臨地実習を行いました。また、家庭科教員免許を取得する学生は、二週間の教育実習も同じ時期にあるために、それぞれ事前指導から事後指導まで落ち着かない様子が感じられま

した。さらに、今年は就職活動も積極的にを行っている学生が多く、数名は、すでに内定をいただいているようでした。頑張りすぎて体調を崩すことの無いよう、心身の管理をしてもらいたいと願っています。

大学生活美術学科 1年

先日、月曜日から一番の授業を初めて担当した際、いつもとは違うクラスの一面に触れることができました。「美術史」ではこれまで目にする事のなかった遅刻する学生たちを目撃し、不思議に安心する自分がいました。これまで張りつめていた心に少しの緩みが生じ、それが遅刻となって現れたのでしょうか。

大学での学びはマラソンです。緊張とリラクゼーションをコントロールするすべを学ぶことも「大学での学び」の一部であると考えています。張りつめすぎず、緩みすぎないバランスを保てるようになるまで、もう少しのところで来ています。

大学生活美術学科 2年

皆さんこんにちは。この四月に生活美術学科に着任いたしました鶴巻史子と申します。授業では主にデジタルメディアを用いたデザインを担当いたします。学生たちと共に、デザインする喜びと楽しさを共有すべく頑張りたいと思っていますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。二年次になると専門科目が増え、自らの専門性を模索する時期に入っていきます。様々な分野の美術を学び、学科内コンクールや美術鑑賞旅行など多くのイベントを通して、自らの創造性を磨きながら、自分らしい表現を身につけていくこととなります。それぞれの飛躍を願っています。

大学生活美術学科 3年

三年次前期に入り、専門科目と技法研究Ⅰaを履修し、卒業制作や進路を見据える時期になりました。春先からの学生たちの活躍を拾ってみると石田悠太が河北美術展入選、三浦俊成・中村望乃・佐藤絢が日本画ゼミナール展出品、鈴木美緒・佐藤真奈らは版画ゼミナールとして各種展覧会に出品しています。その他にも最近

WEB上の様々なコンテストや、審査を通過し、例えばLINEのスタンプや、デジタルイラストの掲載等で活躍している学生らも出てきています。キャンバスやパネルではなく、ペダブレットで制作する学生が増えている今日この頃です。

大学生活美術学科 4年

最終学年の前期、四年生三十一名は就職活動真っ只中に突入しております。クラスの数名は内定が決まった者もありますが、大半の学生は引き続き活動中であり、焦りを強く感じている者も多いです。粘り強く、自分のペースで活動を行えるよう、担任としてサポートしていければと思っております。

また就職活動と同時に進んでいる卒業研究(卒業制作)の中間提出も控えております。四年間の集大成としての制作と就職活動うまく両立できるよう、有効な時間を使っていきたいと思います。

短大食物栄養学専攻 1年

食物栄養学専攻二年生は、四月入学式後に慌ただしく各種ガイダンス及び一泊二日のオリエンテーションキャンプを終え、全員が栄養士を目指して日々勉学に励んでいます。六月中旬に行なわれた体育祭では、各種目に奮闘する姿も見られ、クラスの団結力が高まったように思われます。

現在は、七月上旬の食生活アドバイザー検定やオープンキャンパスの学生スタッフ活動、前期末試験に向けて層勉強に力を入れています。また、夏季休業期間に実施される各種施設見学や二年次の給食管理校外実習に備え、より明確な目的意識を持つことを期待しています。

短大食物栄養学専攻 2年

四月に新入生が加わり、上級生となった四十人は入学時に抱いていた志と夢を叶えるべく最後の短大生活をスタートさせました。授業では年次よりも専門的で実践的な講義・実験・実習を日々こなし、慣れない就職活動に戸惑いつつも夫々が懸命に取り組んでいます。

す。経験豊かな先輩として、六月から始まったオープンキャンパスでは率先して役割を果たし、後輩諸君と共に本学・専攻の魅力を高校生に伝えてくれました。この時期にはいよいよ校外実習が始まる学生もいて、更なる忙しさとプレッシャーに押し潰されそうになりますが、お互いに切磋して自分の未来予想図を完成させることを願っています。

短大子ども生活専攻 1年

入学式から三ヶ月が経ちました。初めは緊張した面持ちで授業に臨んでいた二年生も、現在は短大生活にも慣れた様子で、勉学や課外活動に意欲的に取り組んでいます。

六月中旬には体育祭が開催されました。全員でクラスTシャツを着て一致団結し、女子はバスケットボールで準優勝を果たしました。七月には保育園、幼稚園、施設での見学実習を終え、皆保育者として働きたいと改めて感じたようです。

今後は十月の大学祭に向けて、クラス全員で準備をしていきます。授業だけではなく、行事を通して保育者としての資質を伸ばしていって欲しいと願っています。

短大子ども生活専攻 2年

子ども生活専攻二年生は、四週間の保育所実習Ⅰ・Ⅱを終え、安堵の表情を浮かべています。同時に四週間に亘る保育の現場を経験したことで、保育者としての自覚と自信がついたように見受けられます。保育実習ⅠとⅡの間に行われた体育祭では、食物栄養学専攻の二年生と協力して参加するなど、学生生活を謳歌しました。七月末から二週間の施設実習、十月は四週間の幼稚園実習に向かいます。忙しい毎日の中で、実習に就職活動に学校行事へと精力的に活躍する学生たちは、今が人生で最も大切な瞬間です。社会人に相応しい力を身に付け、充実した学生生活となるようにと心から願っています。



大学 家政学科 准教授

栗山 孝雄

専門分野: 衛生学・公衆衛生学、公衆栄養学

主な担当科目: 公衆栄養学(講義、実習、演習、臨地実習)、保健栄養学、
社会・環境と健康((公衆衛生学)管理栄養士国家試験対策)



現在行っている研究は、大学生を対象とした食生活や食習慣に関する調査研究です。これからの日本を背負っていく大学生(若者)が健康で生きていくにはどうすればいいか? 生きていく上で欠かせない「食事」を中心に、居住形態(一人暮らし、実家暮らし等)や生活習慣(運動習慣やストレスの有無など)の実態把握とそれらの関連性について調べています。

私が専門分野である「衛生学・公衆衛生学」と出会ったのは、大学2年生の時です。クラス担任の一人が衛生学・公衆衛生学の担当教員でした。その先生から「衛生学・公衆衛生学は、人間が健康で長生きすることを目指す学問である」ことを知り、興味を持ちました。その先生のもとで、卒業研究と大学院修士課程の研究を行いました。その後、他大学の大学院博士課程を経て、いくつかの大学で衛生学・公衆衛生学に関する研究、教育に従事しました。所属が変わるたびに、指導教員や上司も変わり、研究テーマも変わります。これまでに所属した研究室はいずれも衛生学・公衆衛生学の分野でしたが、扱った研究はラットを用いた免疫関係の実験、高齢者を対象とした健康調査、厚生労働省等が発表している統計データの考察、人間ドックの健診データと過労死との関連性など、さまざまでした。そのため、一つの研究テーマをじっくり、長い年月かけて継続したことがありません。ただ、さまざまな研究に関わったことが、現在、研究や教育を行う上で役立っています。

現在の研究は、「公衆栄養学」の視点で行っています。扱う内容は「衛生学・公衆衛生学」と同じですが、人間が健康で長生きすることを目指す際、食生活や栄養の視点を交えて考えています。今後は大学生以外の対象者、貧困や格差など現代の日本が直面する問題なども検討材料に加えていこうと考えております。

大学 生活美術学科 助教

立花 布美子

専門分野: 陶芸

主な担当科目: 工芸基礎(陶芸)Ⅰ・Ⅱ、陶芸Ⅰ・Ⅱ、Ⅲ、
技法研究(陶芸)Ⅰ・Ⅱ、卒業研究Ⅰ・Ⅱ



私は陶芸の分野において、特に磁土を用いた「白」の器制作を中心に研究を進めております。単に「白」といっても、「真っ白」から「黄味がかった白」や「青味がかった白」と幅広く、「白」で表現できる陶芸の奥深さに魅了されたことから、更に自分なりの「白」の表現ができないうかと日々模索しております。

私が磁土を用いるようになったきっかけとして、京都という土地での陶芸漬けの毎日を送っていたことから始まります。一から学んだ土の性質の違い(陶土と磁土)、文様を含めた下絵付け、上絵付けの技術、各窯の構造、専門機材の操作、自己の釉薬開発の研究などなど。更に学校が終わってからの製陶所でのアルパイトと、起床し就寝するまでの陶芸三昧でした。何よりも京都というその土地の風土、取り巻く環境で住んでみなければわかり得なかった感覚、空気感を実感できたことが私にとって陶芸に携わっていく上で最大の魅力となったのです。そして、この経験を活かすことで自己の制作において以前より表現の幅を広げていくことができたのです。

最近では磁土を用いた器のマチエールの工夫も始めてみました。通常、磁器という大抵の方は「ツルツル」「硬質」「青白く冷たい」といったイメージを持たれるかと思います。それとは真逆に「ザラザラ」「軟質」「あたたかい」といった表現ができるよう、技術だけではなく、土と向き合いながら様々な表現の研究に取り組んでおります。「陶芸」を通して、これからの「ものづくり」をするものとしていろいろな形で貢献できることを常に考えながら、地元仙台で活動する役割も含め、学生への教育の刺激となるよう、今後とも研究・制作に取り組んで参りたいと思います。

私の研究

短大 生活文化学科 准教授

伊藤 常久

専門分野: 健康科学、教育保健、学校保健

主な担当科目: 生活文化概論、健康管理概論、公衆衛生学



学生時分、生活の学である家政学に触れたことが私のその後の研究活動における支柱、そして原点になったのではないかと考えています。「ただ生きる」のではなく、「よく生きる」ということをどのように理解し、またどうやって実践していくのか? 単なる理論科学に留まらない学問の魅力と可能性に惹かれる中で、私は特に生活価値・資源としての健康に興味を抱きました。学部卒業研究では、健康的な痩身方法として運動プログラムの実証実験を行い、運動による基礎代謝維持と体組成及び体重変化の関連について研究しました。そのこともあって大学院に進んでからは、各ライフステージ・生涯にわたる健康問題と生活、それらの構成要素との関連性を明らかにする研究を進めたいという思いが自分のテーマとして常時頭の中にあっただけに思っています。青年期の生活習慣と自覚的健康との関係性、介護予防を目指す高齢者の健康づくりと地域生活での取り組み、健康・安全・安心な生活と防災との関連等を中心にこれまで研究を続けてきました。着目した課題が専門的に細分化・特殊化・末枝化するほど、生活全体やそれを取り巻く環境へ再度統合化させる必要があると認識していた背景には、やはり家政学的な想像力が働いていたのではないかと感じています。

今を生きる私たちにとって、「よりよい生活」とは一体どのような状況や状態をいうのでしょうか。この誰もが日々当然の如く経験し、且つ永続的な営みである「生活」という事象は、その普遍性ゆえに研究課題として高い関心を持たれることがこれまであまりなかったように思います。従来から生活の柱・主要素といわれてきた衣食住をはじめ、保育や教育の専門家を養成する本学の一員として一再「生活」を理解し、実践する大切さを教育・研究を通して伝えられたら……と思っています。

短大 生活文化学科 講師

山崎 敦子

専門分野: 教育学、保育学

主な担当科目: 保育内容総論、保育内容(環境Ⅰ・Ⅱ・表現Ⅰ)、
保育計画論、保育内容の指導法等



「センス・オブ・ワンダー」という言葉を聞いたことがありますか? 神秘さや不思議さに見えはる感性…例えば、アオムシがその姿からは想像もできない鮮やかなチョウに羽化したり、緑の葉が季節の変化と共に赤や黄色に色づいたり、雨上がりの空に大きな虹がかかったり、こうした場面で抱く驚きや疑問、感動のことを指します。未知のものへの驚きや美しいものへの感動を通して心が揺さぶられる体験を積み重ねることは、乳幼児期の子どもの育ちにおいてとても重要です。身の回りで起きている当たり前の事象に、学生たちが驚き、気付き、学びを生み出せる感性を磨いていけるように、授業の中で「体感する」ことを私は特に重視しています。両手を泥だらけにしてピカピカに光る泥だんご作りに挑戦したり、夏野菜を栽培し、収穫したものを自分たちで調理していただく、道端に生い茂る雑草の名前や特徴を調べたり、秋の自然物を集め、それらを使って製作をしたりなどがその例です。

幼稚園に勤めていた頃は、保育者の適切な援助や環境構成の在り方、子どもへの言葉かけの記録と分析、人とかかわる力を育てるための保育方法について等々、様々なテーマで研究に励んでいました。その対象が、幼稚園児から短大の学生へと移った今、保育者養成校の教員として、保育者の卵たちを大切に育て、一人でも多くの「ひな」たちを保育の現場へ「プロ」として送り出すことに日々使命感を感じています。学生たちには、子どもの感動体験をしっかりと受け止め、自身も心が動いたことを表現し、共感できる、感性豊かな保育者になってほしいと願います。

とはいえ、そんな私も家庭では中3と小3の息子を前に「共感」とは程遠いガミガミ怪獣と化す毎日です。理論と実践の大きな溝を自覚しつつ、まだまだ修行が必要と感じる今日この頃。教育って奥深い……まさに「センス・オブ・なんだ〜?」の世界です(笑)

大学・短大後援会役員会・総会

六月四日(土)、午前十時から大学・短大後援会の役員会が百周年記念棟二階会議室で開催されました。会長・理事長の挨拶があり、平成二十七年事業報告、決算、監査報告、本年度の事業計画案、予算案、役員人事案が事務局提案のとおり承認されました。その後、会場を百周年記念ホールに移して午前十一時から定例総会が開催されました。出席者は教職員を含む三十四人、委任状四〇四通でした。議事の前に、山田宗慶学長から本学教育方針及び特色と学生たちの学習や諸活動についての説明を兼ねた挨拶がありました。総会においても事務局提案の議事は、原案通りに承認されました。

総会後、「百周年記念ホールにおいて株式会社マイナビから、現在の就職環境と保護者支援の在り方」と題する講話があり、内定が出る学生の共通点、大学生活を通じて取り組むこと、家族の支援の在り方等について講話がありました。

午後時から学科・専攻別懇談会に移り、その後担任との個別面談会を実施しました。学科・専攻別懇談会では、学習や実習の状況、学友会活動や学生生活の状況卒業生の進路状況と今後の就職状況などについて先生方からの報告、個別面談会では、有意義な情報交換が行われました。



体育祭

六月十二日に学友会の企画する体育祭がありました。バレーボール(男・女)、バスケットボール(男・女)、長縄跳び、ガチリレーの四種目でそれぞれ熱戦が繰り広げられました。今年の総合優勝は健康栄養学専攻二年生でした。また後夜祭ではフットサルイベントなどが行われ、最後まで盛り上がりました。お天気にも恵まれ、学生にとつては思い出に残る楽しい一日となりました。



東北で唯一の最先端自動織機「織華」導入

平成二十七年年度私立大学等教育活性化設備整備費補助を受け、自動織機が三号館階の実験室に整備されました。自動織機とともにテキスタイルデザインに特化したソフトウェアやプリンターも導入され、家政学科服飾文化専攻、生活美術学科に共通する教育・研究内容である染織に関する先端的な機材設備の拡充が図られました。織物を作る道具と言えは手機ですが、今回導入されたのは、工業的に動力を投入して駆動する力織機であり、レピア織機と

呼ばれる織機です。自動織機は、織物制作の最終工程で、基本的な五つの作業の開口運動、よこ入れ運動、箆打ち運動、送り出し運動、巻き取り運動を自動で行えます。今回両学科に共通する技術である織機が導入されたことから、両学科の横断的な学びの場を設定し、モノづくりプロジェクトとしてアクティブラーニングを実施しました。四月からはそれぞれの学科で、この最先端自動織機を使用した授業も展開しています。



学生たちはコンピュータに作成した組織図を入力、織機で織物を作体験(被服材料学実験)

事務職員紹介



企画課
阿部 寿枝

企画課に所属している阿部です。職務は、先生方への連絡調整、各種会議の準備、その他の庶務的な事務を行っています。また、市民の方を対象に宮城県教育委員会委託のみやぎ県民大学開放講座、本学の公開講座、学都仙台コンソーシアムのサテライトキャンパス公開講座等の準備運営も担当しています。公開講座には是非ご家族での参加を心よりお待ちしております。

業務に追われることが多い毎日ですが、周りに気配りができるよう日々努力して参りたいと思っております。

人事異動

退職の教職員

大学助手
岩井 綾
大学副手
溝口 ゆかり
短大助手
副島 エリカ

新任の教職員

大学講師
鶴巻 史子
大学助手
遠藤 彩紗
大学副手
川角 由
短大助手
乗田 ふみ
短大副手
大滝 友美

PHOTO ALBUM

(平成28年度前期)



入学式

4月4日、緊張の面持ちの新入生とたくさんの保護者をお迎えして厳粛に挙行されました。



ウェルカムパーティー

在学生たちが新入生に早く大学・短大に馴染んでもらおうと企画している毎年恒例のイベントです。「クイズ」、「ミニファッションショー」、「クラブ・サークル紹介」など盛りだくさん。



一日警察署長

「平成28年春の交通安全運動」泉区出発式が、泉区民広場にて開催。一日警察署長に生活美術学科3年の山崎湧郷くんが委嘱され、挨拶と街頭啓発キャンペーンを行いました。



避難訓練

震度6強を想定した避難訓練を実施。地震災害に際し、危険から身を守り、迅速かつ安全に避難できるように予備訓練を実施することで、有事の際の適切な防災技術の体得と防災思想の高揚を図ることが目的です。



三島学園香風会奨学制度 在学生学業奨励金交付式

この奨学金は三島学園独自の奨学制度で、修学意欲が高く学業成績の優秀な在学生が大学・短大計5名が選出され、交付式を行いました。



華道部

華道部が生けてくれるお花です。定期的に四季折々の花を生け、5号館に出入りする学生や教職員の目を楽しませてくれています。



構内清掃

恒例の「構内清掃」を学生と教職員で実施しました。今回も多くの方々にご協力いただき、構内は綺麗です。皆さん、いつもご協力ありがとうございます。



ライブペイント

6月のオープンキャンパス時に行われた工藤稜客員教授のライブイベントです。学生や高校生たちと自由に楽しく描きました。



同窓会総会

三島学園同窓会総会の講演会に、平成13年度家政学科卒業生で主夫芸人として活躍中の中村シェフこと中村力(つとむ)くんをお招きし、「私と東北生活文化大学」と題してお話いただきました。

就職支援センターから

平成29年3月卒業予定の大学4年次生と短大2年次生から就職活動の開始時期が変更になりました。昨年度に続いての変更ですのでどうぞご注意ください。就職までの主な流れは次のとおりです。

3月から企業の広報活動が開始され、学生は業界・企業研究等をして、エントリー（資料請求）します。その後、エントリーシートを提出、6月からは選考試験、そして10月以降に内定と云う流れになります。

現在、すでに求人・求職活動は始まっており、選考試験等を受験するなどして内々定を得る学生の報告を受けることが多くなってきました。学生にとっては、大学の講義・実習と就職活動、7・8月からは公務員試験が実施されるなど、本当に多忙な状況が続きます。就職活動に保護者の皆様のご理解・ご支援をどうかよろしくお願いいたします。

なお、就職情報等のある就職支援センターは百周年記念棟1F就職相談室にあります。求人情報の閲覧、進路相談などにぜひ活用してみてください。